十八史略

先従隗始　―　現代語訳　―

先従隗始

燕の人々は太子の平を位に即けて君主とした。これが昭王である。（昭王は）戦死者を弔い、生存者を慰問し、へりくだった言葉遣いをし、多くの進物を用意して、（天下の）賢者を招こうとした。（そこで）郭隗に質問して言った、「斉は私の国が乱れているのに乗じて、不意に攻め込んで（我が）燕を攻め破った。私は（我が）燕が小国で（今の国力では）仕返しをするのに力不足であることを十分に承知している。ぜひとも賢士を得て（その人と）共に国を治め、そして先代の王の恥辱をすすぐことが、私の願いである。先生、適当な人物を推薦していただきたい。私は自らその方を師として（敬い）仕えたい。」と。

（それを聞いた郭）隗が言った、「昔ある国の君主で、千金を持たせて涓人（君主のそば近くに仕え、日常の世話をする者）に一日に千里を走る名馬を（買い）求めさせたことがありました。（ところが、その涓人は）死んだ名馬の骨を五百金で買って帰って来ました。君主は怒りました。（すると）涓人が（答えて）言いました、『死んだ名馬（の骨）でさえ（高い値で）買ったのですから、まして生きている名馬ならなおさら（もっと高い値で）買ってくれる（と人々は考える）でしょう。（ですから）馬はすぐにもやって来るでしょう。』と。（その言葉どおり、）まる一年もたたないで一日に千里を走る名馬が三頭もやって来たということです。今王様がぜひとも優れた人物を招きたいとお思いならば、まずこの（郭）隗からお始めください。（私のようなものでも厚遇されたとなれば）ましてこの隗より賢い人は、どうして千里の道のりを遠いと思いましょうか（、いや、思いません）。」と。

そこで、昭王は（郭）隗のために邸宅を新しく築いて、彼を先生として（敬い）仕えた。こうして、（これを聞いた）天下の優れた人物は先を争って燕に駆けつけた。